

世界保健機構(WHO)がジカウイルス感染症(ジカ熱)に関する発生情報を報告しています。

●ジカウイルス感染症は2015年にアメリカ大陸で初めて確認されました。

それ以後、感染地域は着実に拡大しています。ジカウイルス感染症を媒介するネッタイシマカおよびヒトスジシマカなどが棲息する国では、感染が拡大する可能性があります。

●2014年1月から2016年2月5日までに、国内でジカウイルス感染症があった国は33か国です。

●ジカウイルス感染症と小頭症発生数の増加が報告されています。

●WHOによる世界規模での予防と感染制御が開始されました。

●日本でも厚生労働省のHPでジカウイルス感染症について詳しく解説しています。

●今号はその内容をピックアップして掲載します。

詳しい全文は厚生労働省<http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000109899.html>



ジカウイルス感染症はどのようにして感染するのですか？



ジカウイルスを持った蚊が媒介して感染します。

感染したヒトから他のヒトに直接感染しません。稀なケースとして、献血や性行為による感染が指摘されています。

妊娠中の女性が感染すると胎児に感染する可能性が指摘されています。



感染を媒介する蚊は日本にもいますか？



ウイルスを媒介する蚊は「ネッタイシマカ」と「ヒトスジシマカ」が確認されています。

「ネッタイシマカ」は、日本にはいません。「ヒトスジシマカ」は秋田県および岩手県以南で見られます。



予防接種はありますか？



現在ジカウイルス感染症に有効なワクチンはありません。



治療薬はありますか？



現在ジカウイルスに対する特有の薬は見つかっておりません。
治療は、対症療法となります。



罹ると重い病気ですか？



ジカウイルス病は、感染しても 症状がないか、症状が軽いため気づきにくいこともあります。

症状は軽く、2～7日続いた後に治り、予後は比較的良好な感染症です。



日本国内でジカウイルスに感染する可能性はあるのでしょうか？



日本にはジカウイルス感染症の媒介蚊であるヒトスジシマカが日本のほとんどの地域(秋田県および岩手県以南)に生息しています。

このことから、仮に流行地でウイルスに感染した発症期の人(日本人帰国者ないしは外国人旅行者)が国内で蚊にさされ、その蚊がたまたま他者を吸血した場合に、感染する可能性は低いながらもあり得ます。

ただし、仮にそのようなことが起きたとしても、その蚊は冬を越えて生息できず、限定された場所での一過性の感染と考えられます。



世界のどの地域が流行地ですか？



アフリカ、中央・南アメリカ、アジア太平洋地域で発生があります。

特に、近年は中南米及びその周辺地域で流行しています。

報告された国や地域

●中南米・カリブ海地域

バルバドス、ボリビア、ブラジル、コロンビア、コスタリカ、キュラソー島、ドミニカ共和国、エクアドル、エルサルバドル、仏領ギアナ、グアドループ、グアテマラ、ガイアナ、ハイチ、ホンジュラス、ジャマイカ、マルティニーク、メキシコ、ニカラグア、パナマ、パラグアイ、プエルトリコ、セント・マーティン島、スリナム、米領バーجين諸島、ベネズエラ

●アジア・西太平洋地域

米領サモア、フィジー、ニューカレドニア、サモア、ソロモン諸島、タイ、トンガ、バヌアツ



海外旅行中に流行地域で蚊に刺された場合はどこに相談すればよいですか？



すべての蚊がジカウイルスを保有している訳ではないので、蚊に刺されたことだけで心配する必要はありません。

心配な場合は、帰国された際に、空港等の検疫所でご相談ください。

また、帰国後に心配なことがある場合は、最寄りの保健所等に御相談ください。

なお、発熱などの症状がある場合には、医療機関を受診してください。



流行地域へ渡航をする場合は、どのように予防すればよいですか？



海外の流行地にでかける際は、蚊に刺されないように注意しましょう。長袖、長ズボンの着用が推奨されます。また蚊の忌避剤なども現地では利用されています。